

1988年1月1日

<毎月1日発行>

第106号 8頁 400円

定期購読料（1部22回）

半年 2000円、1年 4000円（送料込み）

赤旗

せつき

共産主義者同盟中央機関紙

発行
赤路社

新年号

東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号

深まる帝国主義の危機

躍動する民族解放運動

今こそ赤旗を高く掲げ

強大な革命党の建設へ

韓国・現代重工の労働者のデモ（'87年8月18日）

過ぐる年は、帝国主義・社会帝国主義の支配が、その経済的土台から崩れだしたことをお告げる諸々の事件で色どられた。社会の諸階級・諸階層と諸国民の間で、経済的利害をめぐる・文字通り生存をかけた対立がかつてなく尖鋭化しようとしている。それは、帝国主義の政治的上部構造を根こそぎ転覆してしまったが、米帝指導下の戦争遂行体制建設という巨大なエネルギーを秘めて、国際プロレタリアートと被抑圧民族の一大政治運動が成長する環境を、必ずや醸成するにちがいない。周知のように、中曾根から竹下へ政権は移ったが、米帝指揮下の戦争遂行体制建設という金融独占の路線は踏襲された。また社会党は、公・民と共に翼賛体制の一角を占めたいと願い、共産党は、「平和と民主主義」擁護勢力の結集という空文句に酔いしれている。その下で革命運動は、依然としては苦難を強いられている。しかし、苦難を前進への契機にするのが革命家であろう。Xデー攻撃に総評解体には、民同政治から労働者を解放する好機として対処することだ。そして、三里塚二期決戦にむけた攻勢的闘い。天皇来沖阻止闘争の中で復帰運動を実践的に突破した沖縄人民の闘い。この二・三年で力強く発展した反天皇制運動。四年以上にわたり、金町一家と実力で対決し追い詰める日雇全協・寄せ場労働者の闘い。一連の新たな闘いの萌芽を育て革命的労働組合運動と全人民的政治闘争の巨大なうねりにしてゆこう。

こうした闘いの根幹に、現代修正主義とキリスト教一線を画したマルクス・レーニン主義の革命党の創建が据えられねばならない。同志・友人諸君！韓国・フィリピンをはじめとした第三世界の躍動する民族解放運動に連帯し、日帝打倒・米帝一掃・プロレタリア独裁樹立に向つて、断固として進撃しよう。

年頭にあたつて

共産主義者同盟・中央委員会

危機を迎える革命勢力を

米帝レーガンと社帝ゴルバチヨフは、昨年十二月、ニューヨークで二回目の首脳会談を開き、INF(長距離中距離ミサイル)全廃条約に調印した。

同会談では、「戦後の軍備拡張を終らせ、軍縮への新たな出発点」として戦略攻撃核ミサイルの50%削減や、「軍縮だけではない幅広い両国間の関係づくり」にむけて、「地域問題」や「米ソの安定的関係」を確立していくための四回目の会談が行われるという。

だが、戦後、世界支配を欲しましてきました米ソ超大国の「対話」の気運は、「冷戦構造」に替わる両超大国の安定した霸権を生み出すものではない。

米帝を頭目とする西側帝国主義は、戦後、国際反革命体制の形成の一時期のものにはすぎなかった。レーガンのSDIを推進する大軍拡は財政赤字を飛躍的に拡大させ、インフレ圧力を累加。この抑制を狙った金融引き締めは高金利・ドル高を呼び、アメリカ経済の国際競争力を弱め経常収支の悪化を招いた。

この「双子の赤字」は、八五年九月のG5会議以降の西側列強の総合政策の実施によっても改善されずにきた。否、債務国に転落した米帝は、勃興する日・西独の脅威への循環の主要な策源地となっている。

米帝の戦略核兵器削減への要求は、激化する帝主義相互の市場主導的の風潮に對抗するための一時凌ぎに他ならないのである。

だが、軍縮と増税によって財政赤字を減らしていくことなど田代で、「Xデー」をマルクマークにした天皇制をアコとする排外主義的な国民統合と治安管理・弾圧体制来るはずがない。米帝の相対的

今や、帝国主義世界支配の危機は、政治的危機時代の始まり、すなわち旧来の政治構約に調印したことによっても論議が交わされた。そして本年中にも、モスクワで「米ソの安定的関係」を確立していくための四回目の会談が行われるといふ。

だが、戦後、世界支配を欲しましてきました米ソ超大国の「対話」の気運は、「冷戦構造」に替わる両超大国の安定した霸権を生み出すものではない。

崩れる米帝の世界支配

米帝を頭目とする西側帝国主義は、戦後、国際反革命体制の形成の一時期のものにはすぎなかった。

レーガンのSDIを推進する大軍拡は財政赤字を飛躍的に拡大させ、インフレ圧力を累加。この抑制を狙った金融引き締めは高金利・ドル高を呼び、アメリカ経済の国際競争力を弱め、経常収支の悪化を招いた。

この「双子の赤字」は、八五年九月のG5会議以降の西側列強の総合政策の実施によっても改善されずにきた。否、債務国に転落した米帝は、勃興する日・西独の脅威への循環の主要な策源地となっている。

米帝の戦略核兵器削減への要求は、激化する帝主義相互の市場主導的の風潮に對抗するための一時凌ぎに他ならないのである。

だが、軍縮と増税によって財政赤字を減らし、一層のドル安で貿易赤字を減らしていくことなど田代で、「Xデー」をマルクマークにした天皇制をアコとする排外主義的な国民統合と治安管理・弾圧体制来るはずがない。米帝の相対的

一方、ソシ帝を頭目とする東側も軍縮を余儀なくされている。ソシ帝は、国家独占資本主義としての停滞と腐朽性の深まりの中で、国家予算の40%を占める軍事予算の圧力に苦しめ、インフレ昂進の中で労働者階級の生活は疲弊してきた。六〇年代の軍需産業を中心とする大規模投資による国営企業は、従属諸国を疲弊させてきた。それがソシ帝に、もはや古臭く世界支配への野望を内に密めつつ、一時的にせよ東西の軍事的緊張を緩めざるをえないという世界分割支配の動搖に際々した両国が、新たに「米ソの安定的関係」を確立していくための四回目の会談が行われるといふ。

だが、戦後、世界支配を欲しましてきました米ソ超大国の「対話」の気運は、「冷戦構造」に替わる両超大国の安定した霸権を生み出すものではない。

一方、ソシ帝を頭目とする東側も軍縮を余儀なくされている。ソシ帝は、国家独占資本主義としては、「公開」をテコに大衆を政治活動員し、国是としていた国営経営運営のタガを一定ゆる、企業

も軍縮を余儀なくされている。ソシ帝は、「公開」をテコに大衆を政治活動員し、国是としていた国営経営運営のタガを一定ゆる、企業

も軍縮を余儀なくされている。ソシ帝は、「公開」をテコに大衆を政治

情勢を読む視座

大・パニッタへの道

(一) 第一次世界大戦後の世界の著しい特徴の一つは、米ソ超大国による分割支配が確立したことであった。しかし四十余年を経過した今日、米ソの霸権は相対的に大いに低落し、断ゆまない動搖が常態となるに到つてゐる。とりわけ、合衆国の地盤沈下は日を追つて深まり、西側帝国主義者は予感される大危機の影に、かつてない程の怯えをみせている。

戦後十年は戦争の荒廃からの復興期であった。五十年代半ばから比較的長い相対的な安定期が続いた。しかし、七三年のオイルショックは、西側帝国主義の強襲横、アメリカの単独の君臨体制の終りを告げた。生産は打撃を受け、一時低下し、ついで横ばいに転じ、失業が増え、不況下でのインフレが昇進し、国家財政は赤字を加え、サミットが始まった。以降今日まで、西側帝国主義は、それなりの試行錯誤を加え、危機の回避に力を入れながらも、かえつて来るべき危機の深さを増してゆくにある。断えまい動搖、競争

に回し、敗戦と荒廃にうちひがれた西欧と日本の上に君臨した。

しかし、以降西側帝国主義間に不均等発展は急速に進み、四十余年後の今日、たしかに、依

る。とりわけ、戦後の不均等発展を特徴づける最大の要因は日本

が、日本および西欧の諸帝国主義に差を縮められ、逆に世界最大の債務国に転落しているのである。

然世界最大の経済である日本との間で演じられたもの

は、日本および西欧の諸帝国主義が、すでに経済的にも軍事的にも

大の債務国に転落しているのである。兩者共に自国資本の支配力

が、日本および西欧の諸帝国主義が、すでに経済的にも軍事的にも

大の債務国に転落しているのである。兩者共に自国資本の支配力

か、当面変化させるものではな

いことを忘れてはいる。す

べば全くなく、ますますソ連へ

がたつ日本の先は、不均等発

展によって米国に向つてゆくの

で、不均等発展が近い将

がたつ日本の先は、不均等発

展が、こうした問題・民間民政

権力が日本のみならず英・西独

の内実に充分踏みこんだ認識を

したのに對し、米国のはねは九

倍の伸びに止つた。この数字は、

全大雑把な名目上のものにす

ぎないとはいへ、兩者の経済上

の力関係の変化を見る上で、そ

れなりの指標足りえよう。

しかし、西側帝国主義界は

明らかに從来の相対的安定のバ

ンドルの「從属論」に典型を見

た。

(二) 帝国主義の没落、それに取つて、合衆国の地盤

に影響する存在の欠如がある。

と、その結果、米国はそれを九

倍ますます強化されてゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

よろしくはない。この偏向は、国内では日本

が、まさに考えられない、こ

れ迄も左翼内に根強くあつた不

満州の「正義論」に成功した。不正

選舉による以外、盧泰愚が勝利

したのに對し、米国のはねは九

倍ますます強化されゆくと

思はれます。これは、米帝の支配

が、まさに強化されると同時に

まさに破壊したことと言つても

決戦情況へ煮詰まる三里塚

堀部落の自主耕作地囲い込みや

木ノ根部落破壊を扱する大衆的

実力決起に見られるように、用

地内外を眞に反転政勢の態勢

を強め、戦闘意欲は高揚してい

る。九十年概成にむけた世論づくり

は最終仕上げにむけて一層強

まる。それは、一期本格工事を

ますます促進させ、B・C滑走

路の造成工事着手を早めるに違

いない。具体的には、同盟主

耕作地の封鎖から、周辺工事の

進展に伴う共有地の封鎖や用地

内に点在する団結小屋に対する

バリケード包囲など、闘争拠点

に対する攻撃を強めつつ、用地

内農民を孤立させながらの切崩

しに手力をあげていいだろう。

これに対して反対同盟は、十

月全国闘争やそれにつづく横

戦線の再建こそ目標されなけれ

ばならない。

革命に直結する財政危機

(一)

昨年十一月発足した竹下内閣

は、大型間接税導入を中心とし

た「抜本的税制改革」を当面す

る最大の政治課題とするこ

とはっきり表明した。すなわち、

竹下首相は、国会での初の所信

表明演説で、前内閣から引き続

き内政の最大の懸案事項である

税制改革について、「①国際公

民化されるよろしい日本経済の活性

を高める税制②国民が納得して

負担できるよろしい簡単な公平な

税制③本格的高齢化社会の到来

を控えて安定した歳入基盤を提供

し得る税制」という三原則を提

案をとりまとめるとして本年

秋の改革実現を示唆した。

支配階級が、過去二度に渡る

失敗に至り燃えることなく大型

間接税導入を計る背景には、言

う迄もない財政危機がある。八

七年度のわが国の国家予算は、

歳出が四五兆一〇〇億円なの

に対し、歳入は四五兆六千億円

に上り、差額の十五兆二〇〇億

円を国債の発行による賄つた。

つまり、支出の約五分の一は借

金に頼っていた。国家財政の国

債(つまり借金)への依存度は

八〇年度には三三%であり、八

五年度では二三%であったか

ら、たしかにこの間の行政改革

によりそれは低下してきた。し

かし、年々新たに借金を調達せ

う。そして、それが支えてきた

社会体制も瓦解せざるを得ない

。すなわち、財政破綻は革命

不況を和らげ、階級間の激突を

緩和せんとしてきた。

國家はそれがいかなるものに

は成り立たない。もし、國家が

みならぬことは、借入金残高

を増大させざるをえない。他方

で、中曾根内閣が八五年一月

に政府統一見解として出した

とおりそれは低下してきた。

五年度では二三%であつたか

ら、たしかにこの間の行政改革

によりそれは低下してきた。

しかし、年々新たに借金を調達せ

う。そして、それが支えてきた

社会体制も瓦解せざるを得ない

。すなわち、財政破綻は革命

不況を和らげ、階級間の激突を

緩和せんとしてきた。

國家はそれがいかなるものに

は成り立たない。もし、國家が

みならぬことは、借入金残高

を増大させざるをえない。他方

で、中曾根内閣が八五年一月

に政府統一見解として出した

とおりそれは低下してきた。

五年度では二三%であつたか

ら、たしかにこの間の行政改革

によりそれは低下してきた。

しかし、年々新たに借金を調達せ

う。そして、それが支えてきた

社会体制も瓦解せざるを得ない

。すなわち、財政破綻は革命

不況を和らげ、階級間の激突を

緩和せんとしてきた。

國家はそれがいかなるものに

は成り立たない。もし、國家が

みならぬことは、借入金残高

を増大させざるをえない。他方

とおりわけ階級的労働

に対する攻撃を強めつつ、用地

内農民を孤立させながらの切崩

しに手力をあげていいだろう。

これに対して反対同盟は、十

月全国闘争やそれにつづく横

戦線の再建こそ目標されなけれ

ばならない。

（二）

されている。これが、今日歳出の

誇張もない。

国家はそれがいかなるものに

は成り立たない。もし、國家が

みならぬことは、借入金残高

を増大させざるをえない。他方

で、中曾根内閣が八五年一月

に政府統一見解として出した

とおりそれは低下してきた。

とおりわけ階級的労働

に対する攻撃を強めつつ、用地

内農民を孤立させながらの切崩

しに手力をあげていいだろう。

これに対して反対同盟は、十

月全国闘争やそれにつづく横

戦線の再建こそ目標されなけれ

ばならない。

（三）

されている。これが、今日歳出の

誇張もない。

国家はそれがいかなるものに

は成り立たない。もし、國家が

みならぬことは、借入金残高

を増大させざるをえない。他方

で、中曾根内閣が八五年一月

に政府統一見解として出した

とおりそれは低下してきた。

とおりわけ階級的労働

に対する攻撃を強めつつ、用地

内農民を孤立させながらの切崩

しに手力をあげていいだろう。

これに対して反対同盟は、十

月全国闘争やそれにつづく横

戦線の再建こそ目標されなけれ

ばならない。

（四）

されている。これが、今日歳出の

誇張もない。

国家はそれがいかなるものに

は成り立たない。もし、國家が

みならぬことは、借入金残高

を増大させざるをえない。他方

で、中曾根内閣が八五年一月

に政府統一見解として出した

とおりそれは低下してきた。

とおりわけ階級的労働

に対する攻撃を強めつつ、用地

内農民を孤立させながらの切崩

しに手力をあげていいだろう。

これに対して反対同盟は、十

月全国闘争やそれにつづく横

戦線の再建こそ目標されなけれ

ばならない。

（五）

されている。これが、今日歳出の

誇張もない。

国家はそれがいかなるものに

は成り立たない。もし、國家が

みならぬことは、借入金残高

を増大させざるをえない。他方

で、中曾根内閣が八五年一月

に政府統一見解として出した

とおりそれは低下してきた。

とおりわけ階級的労働

に対する攻撃を強めつつ、用地

内農民を孤立させながらの切崩

しに手力をあげていいだろう。

これに対して反対同盟は、十

月全国闘争やそれにつづく横

戦線の再建こそ目標されなけれ

